

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年12月19日更新

事務事業名		病児・病後児保育事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	荒牧 聡
	施策	4 子育て支援の充実				所属課	子育て支援課	担当者名	衛藤 和博
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	子ども家庭班	(内線)	1185
予算科目		会計一般	款3	項2	目4	事業連番10579	根拠法令	合志市病児・病後児保育事業実施要綱 成果優先度評価結果：② コスト削減優先度評価結果：⑪	
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	・病児・病後児の預かり保育を実施(合志市社協に事業委託) ※菊陽町委託については、平成21年度11月から南ヶ丘福祉センター輝き館が開設されたため、平成21年度からは委託していない。 ・病児・病後児保育事業での預かり乳幼児の突発的な症状に対する診察、処置及び預かり指導に対処するために嘱託医を委嘱している。 ・原則として合志市在住の生後2箇月から小学校3年生までの児童等であって、当面症状の急変は認められないが、病気の回復期には至っていない児童等又は病気の回復期にある児童等で、かつ、保護者が勤務等の都合により家庭での育児が困難な児童等を対象に受入れを実施している。 現在、合志市社協へ委託し、ふれあい館の「すこやか」と輝き館の「ひかり」の2箇所で開催している。それぞれの施設設備等の関係で受入れ定員が少ないため、風邪等の流行する時期によっては受入れできない場合もある。
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤委託料請求書受付、審査 ⑥委託料の支払 ①毎日の病後児保育利用児童の健康管理指導助言 ②突発的な症状に対する診察、処置 ③職員、保護者への指導研修
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	流行時期になるとベッド数が足りなくなり、受入できない状況であるため、ベッド数の増加やカ所数の増加の要望がある。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動)(DO) 生後2箇月から小学校3年生までの病気または病気回復期の児童等の預かりをすこやか及びひかりの2ヶ所で行った。 延べ利用者数 すこやか(ふれあい館内)814人 ひかり(南ヶ丘福祉支援センター内)235人		30年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ・生後2箇月から小学校3年生までの病気または病気回復期の児童等の預かりを行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:病後児保育の実施施設数	箇所	熊本市病児・病後児保育施設利用者増による広域連携負担金の増
イ:病後児保育の登録者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
・生後2箇月から小学校3年生までの病気または病気回復期にある児童で、病児・病後児保育を利用した児童	人	→ア:小学校第3学年までの児童数
		→イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・子育てと仕事の両立ができる。 ・利用児童の健康を適切に管理できる。	人	→ア:病後児保育の利用者数
		→イ:
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
利用希望にどれだけ対応できているかを指標とするため、利用者数として設定した。また、ベッド数が限られており、風邪等の流行によっても大きく左右されることから、前年度並みで設定した。		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込	
① 活動指標	ア	箇所	2	2	2	2	2	2	2	2	
	イ	人	2,246	2,540	2,300	2,856	3,000	3,000	3,000	3,000	
② 対象指標	ア		6,776	7,623	6,850	7,659	7,700	7,750	7,800	7,850	
	イ										
③ 成果指標	ア	人	1,017	951	1,000	1,049	1,000	1,000	1,000	1,000	
	イ										
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円	5,704	5,704	6,892	6,892	6,901	6,901	6,901	6,901
		都道府県支出金	千円	5,644	5,571	6,892	6,766	6,901	6,901	6,901	6,901
		地方債	千円								
		その他	千円	1,620	1,858	1,536	2,523	2,043	2,043	2,043	2,043
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	5,599	5,538	6,875	6,069	6,539	6,539	6,539	6,539
	(A) 事業費計	千円	18,567	18,671	22,195	22,250	22,384	22,384	22,384	22,384	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	2	4	2	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	80	62	70	44	70	70	70	70
		(B)人件費計	千円	297	0	278	174	278	278	278	278
トータルコスト(A)+(B)			千円	18,864	18,671	22,473	22,424	22,662	22,662	22,662	

事務事業名	病児・病後児保育事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度の事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 【前年度内容】 利用には波があるものの、保育を必要とするニーズには、ほぼ受入れできており、安心して子育てや仕事ができる意図には大きく貢献できた。
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 【前年度内容】 突発的な流行風邪の蔓延がない限りは、例年並みの受入れはできると判断する。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】 保育の定員枠があるため、利用申込が多い場合は利用できないことがある。ベッド数の増加や施設の増加ができなければ今のところ向上の余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 【前年度内容】 類似事業がないため他に手段がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】 経費のほとんどが病児等の預かりのための人件費であるため、あらかじめ配置準備をする必要があり、年間を通した安定した職員配置が必要であるため、国の示している基準内の最低経費である現在の経費から削減余地がない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】 最小人員でやっており、削減余地がない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 【前年度内容】 小学校や保育所等に通所している児童等で登録すれば誰でも利用できるもので、適正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 【前年度内容】 国が子育て支援事業として推進している事業の一つであるため、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

【前年度内容】 すこやか（定員6ベッド）及びひかり（定員3ベッド）で実施した。感染力の高い疾病（新型インフルエンザ等）に対応に向けて、施設改修などの機能強化を図ったことで、より安全安心な病児保育が実施できた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												